

児童 2年男子1名 3年男子1名 4年女子1名
5年男子1名 5年女子1名
授業者

1 単元名

秋の遠足のことを話そう

2 単元について

【単元設定の理由】

本学級は2年生1名（A）、3年生1名（B）、4年生1名（C）、5年生2名（D、E）の5名で構成されている。

本学級に在籍する子どもたちの実態について、学習活動の様子や日常観察から次のようにとらえた。

子ども	「話すこと」にかかわる実態
A (2年)	「プールは」「給食は」など単語や1語文で話すことが多い。聞きたい、話したいという強い気持ちがあるが、聞き取れないなど言葉にならない表現も多い。
B (3年)	体験したことを「僕は～しました」と3語文程度で話すことができる。その時感じたことを教師から尋ねると「楽しかった」など簡単な気持ちを話すことができる。早口で話し方がはっきりしない。
C (4年)	体験したことを話すことに意欲的であるが、単語を並べて話したり、言葉や助詞を抜かして話したりするため相手に通じないことも多い。教師が尋ねると「楽しかった」「うれしかった」と気持ちを話すことができる。
D (5年)	話したいという思いはあるが、「えっとね、えっとね」と言葉に詰まってしまうことも多い。自分の思いついた単語を並べ、話したいことを文として組み立てて話すことが難しく相手に伝わりにくい場面も多い。
E (5年)	教師に家庭での出来事などを積極的に話すことができる。状況を詳しく話したり、自分の気持ち加えたりして話すことができるが、文を順序よく整理して話すことが苦手で、同じ表現を繰り返したり、話が前後したりすることがある。

これを受けて、国語科の「話すこと」にかかわる年間目標を次のように設定した。

子ども	「話すこと」にかかわる年間目標
A (2年)	体験したことを3語文程度で話し、感情を表す言葉（楽しい、おいしい等）を話すことができる。
B (3年)	体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について4文以上で話し、簡単な感想も話すことができる。
C (4年)	体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について3文以上で話し、簡単な感想も話すことができる。
D (5年)	体験したこと、感じたこと、思ったことを相手に伝わるように順序立てて4文以上で話すことができる。
E (5年)	体験したこと、自分が一番伝えたいことを意識して5文以上で話すことができる。

年間目標の達成に向けこれまで子どもたちは、生活単元学習「春の遠足（冷麺作り）」、「誕生会をしよう」「校内合宿をしよう」等や日々の行事にかかわりながら簡単な視覚的台本を使い、友達や家族に様々な体験を伝える学習を行ってきた。「だれ」「いつ」「どこ」「何をした」の内容や、伝えたい場面を選択し「ぼくは～しました。」の話型に沿って話すことや、自分の気持ちを簡単に加えて視覚的台本を見ながら話す練習も行ってきた。それを踏まえ、本単元の目標を次のように設定した。

子ども	本単元の目標
A (2年)	体験したことを3語文「だれ、何、どうした」程度で話すことができる。簡単な気持ちをイラストから選び話すことができる。
	視覚的台本（写真）を見て話すことができる。
B (3年)	体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について3文以上で話し、簡単な感想も話すことができる。助詞を正しく使って話すことができる。
	キーワードと視覚的台本の文末を半分くらい消した台本を見て話すことができる。
C (4年)	体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について3文程度で話し、簡単な感想も話すことができる。助詞を正しく使って話すことができる。
	キーワードと視覚的台本の文末を1～4文字を消した台本を見て話すことができる。
D (5年)	体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について整理して、4文程度で話し、自分が感じたことや思ったことも話すことができる。
	小見出しと視覚的台本の文末を半分くらい消した台本を見て話すことができる。
E (5年)	体験したこと、自分が感じたこと、思ったことを相手に伝えるように順序立てて5文程度で話すことができる。
	キーワードと写真を残した視覚的台本を見て話すことができる。

* 上段「話して伝える内容」下段「視覚的台本の活用について」

【研究にかかわって】

(1) 生活単元学習と関連させた「体験の場」の工夫

本単元「遠足のことを話そう」は、生活単元学習「秋の遠足」で体験したことやその時の気持ちを話す活動である。校外に出かけて様々な体験ができる遠足を子どもたちはとても楽しみにしている。そして今回の遠足では、子どもたちはピザ作りを体験してきた。学校でもピザ作りをしたことはあるが、今回は生地を作るところから体験が始まり、自分たちで味付けやトッピングも行い、出来立てのピザを食べることができた。また、施設近くのぶどう園でぶどう狩りの体験もすることができた。このような体験は子どもたちの心を揺り動かし、楽しかったことやおいしかった気持ちを「誰かに伝えたい」「話したい」という意欲を引き出すことにつながると考えている。

(2) 「準備・練習の場」の工夫

自分の体験したことを書くために、視覚的台本を準備する。「だれ」「いつ」「どこ」「何をした」に従って話したいことを組み立てていくことや「ぼくは～しました。」と主語や述語を使って文章を組み立てる学習をしていく。視覚的台本を書くことは、話したいことを整理できない子どもたちや文章に組み立てて話すことが苦手な子どもたちにとって話すことの手がかりとなると考える。また、自分が体験したことを「家族」に伝える場面を設定し、伝える相手を意識できるように家族の写真も用意する。更に、教師が写真のお面をつけて一人一人の話を聞いたり、簡単なやり取りの場面を意図的に作ったりすることで一人一人のコミュニケーションをはぐくむ学習にしたいと考えた。

3 学習指導計画 (全3時間) ◎学習活動 *個のねらい

時	A (2年)	B (3年)	C (4年)	D (5年)	D (5年)
体験の場	◎生活単元学習 「秋の遠足」				
練習の場	◎「遠足」を振り返り、伝えたい場面を選択する。				
	<p>1</p> <p>*伝えたい場面を一つ以上選択することができる。 *「ぼくは～しました。」の話型を覚え、話すことができる。</p>	<p>*伝えたい場面を一つ以上選択し、「ぼくは～しました。」という話型に沿って話すことができる。感想を話すことができる。</p>	<p>*伝えたい場面を一つ選択し、「わたしは～しました。」の話型に沿って話すことができる。簡単な感想を話すことができる。</p>	<p>*伝えたい場面を一つ以上選択し、「ぼくは～しました。」の話型に沿って話すことができる。整理して話すことができる。</p>	<p>*伝えたい場面を一つ以上選択し、詳しく話すことができる。理由や感想を話すことができる。</p>
発表の場	◎家族に伝える内容を視覚的台本に書き、話す練習をする				
	<p>2 (本時)</p> <p>*写真を手がかりに、伝えたいことを教師と確かめ、視覚的台本をなぞり完成することができる。 *体験したこと3語文「だれ、何、どうした」程度で話すことができる。 *簡単な気持ちをイラストから選び話すことができる。 *視覚的台本を見ながら話すことができる。</p>	<p>*写真や板書の言葉を手がかりに視覚的台本を完成することができる。 *体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について3文以上で話し、簡単な感想も話すことができる。助詞を正しく使って話すことができる。 *キーワードと視覚的台本の文末を半分くらい消した台本を見て話すことができる。</p>	<p>*写真や口頭作文を基に助詞を正しく使って視覚的台本を完成することができる。 *体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について3文程度で話し、簡単な感想も話すことができる。助詞を正しく使って話すことができる。 *キーワードと視覚的台本の文末を1～4文字消した台本を見て話すことができる。</p>	<p>*写真、小見出しをもとに視覚的台本を完成することができる。 *体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について4文程度で話し、自分が感じたこと、思ったことも話すことができる。 *小見出しや視覚的台本の文末を半分くらい消した台本を見て話すことができる。</p>	<p>*写真や板書の言葉を手がかりに体験したこと、自分が感じたこと、思ったことを相手に伝えるように順序立てて5文程度で話すことができる。 *キーワードと写真のみ残した視覚的台本を見て話すことができる。</p>
発表の場	◎家庭で、家族に「秋の遠足」のことを話す。				
	<p>*体験したことを3語文「だれ、何、どうした」程度で話すことができる。 *簡単な気持ちをイラストから選び話すことができる。 *視覚的台本(写真)を見て話すことができる。</p>	<p>*体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について3文以上で話し、簡単な感想も話すことができる。助詞を正しく使って話すことができる。 *キーワードと視覚的台本の文末を半分くらい消した台本を見て話すことができる。</p>	<p>*体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について3文程度で話し、簡単な感想も話すことができる。助詞を正しく使って話すことができる。 *キーワードと視覚的台本の文末を1～4文字消した台本を見て話すことができる。</p>	<p>*体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について4文程度で話し、自分が感じたこと、考えたことも話すことができる。 *小見出しや視覚的台本の文末を半分くらい消した台本を見て話すことができる。</p>	<p>*体験したこと、自分が感じたこと、思ったことを相手に伝えるように順序立てて5文程度で話すことができる。 *キーワードと写真のみ残した視覚的台本を見て話すことができる。</p>

振り返りの場	3	◎家族からの感想を読み、伝わったことを確かめたり、伝えられた人の気持ちを考えたりする。				
		*家族の感想を教師と一緒に読むことができる。	*家族の感想を読み、自分の伝え方を振り返ることができる。 *「だれ、いつ、どこ、何をした」を話すことができる。 *次の発表について考えることができる。	*家族の感想を読むことができる。 *「だれ、いつ、どこ、何をした」を話すことができる。 *次の発表について考えることができる。	*家族の感想を読み、自分の伝え方を振り返ることができる。 *「だれ、いつ、どこ、何をした」を整理して話すことができる。 *次の発表について考えることができる。	*家族の感想を読み、自分の伝え方を振り返ることができる。 *「だれ、いつ、どこ、何をした」を順序立てて話すことができる。 *次の発表について考えることができる。

4 本時の学習

(1) ねらい

指導計画の2時(本時)を参照

(2) 展開 別紙

(3) 評価規準

子ども		評価規準 (○) と 評価規準に至らなかった時の教師の支援 (△)
A (2年)	○	体験したことを3語文(だれ、何、どうした)程度で話すことができる。簡単な気持ちをイラストから選び話すことができる。 視覚的台本(写真)を見て話すことができる。
	△	教師が指で文字や写真を指し示したのを見ながら教師の言葉を模倣して話すことができる。
B (3年)	○	体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について3文以上で話し、簡単な感想も話すことができる。助詞を正しく使って話すことができる。 キーワードと視覚的台本の文末を半分くらい消した台本を見て話すことができる。
	△	写真やキーワードを教師と一緒に確認し、思い出しながら話すことができる。
C (4年)	○	体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について3文程度で話し、簡単な感想も話すことができる。助詞を正しく使って話すことができる。 キーワードと視覚的台本の文末を1～4文字消した台本を見て話すことができる。
	△	写真やキーワードを教師と一緒に確認し、思い出しながら話すことができる。
D (5年)	○	体験したことを「だれ、いつ、どこ、何をした」について整理して4文程度で話し、自分が感じたことや思ったことを話すことができる。 小見出しと視覚的台本の文末を半分くらい消した台本を見て話すことができる。
	△	写真や小見出しを教師と一緒に確認し、思い出しながら話すことができる。
E (5年)	○	体験したこと、自分が感じたこと、思ったことを相手に伝えるように順序立てて5文程度で話すことができる。 キーワードと写真を残した視覚的台本を見て話すことができる。
	△	写真やキーワードを教師と一緒に確認し、思い出しながら話すことができる。